

第2回

よもよも大賞 結果発表

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで実施していたよもよもブックスの人気投票「よもよも大賞」へご投票ありがとうございました！
集計が終わりましたので結果発表いたします！

(皆様からのおすすめポイントについては、紙面の都合により内容を変えずに修正・省略しています。)



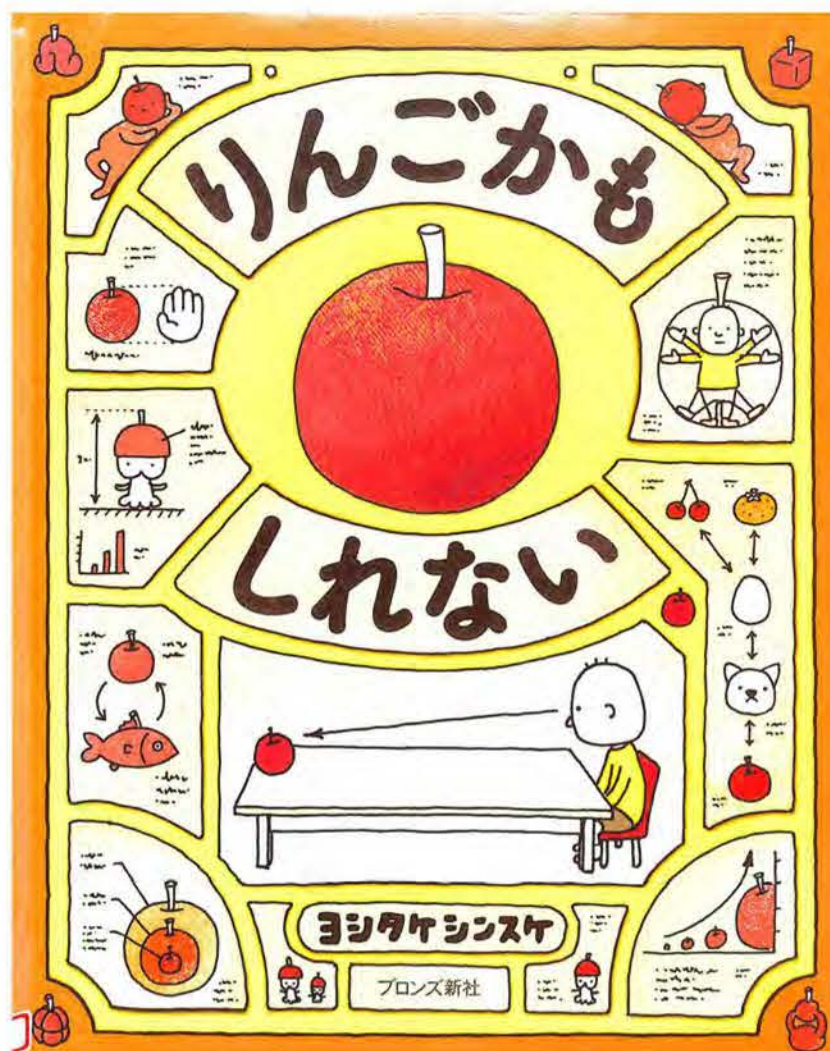
『りんごかもしれない』
ヨシタケ シンスケ/作
ブロンズ新社

みんなからのおすすめポイント

・現実では考えられないことをどんどん想像していくのがワクワクしてたまらない。どんどん次のページをめくっていくのが楽しみになる。そして忘れたところに見ることでも面白さに満たされる。

・おすすめするポイントは読んで楽しくなるところです。ただのりんごと思いきやなんか秘密があると思う主人公が色々な想像をする物語です。主人公の頭の中以外にも自分でりんごの秘密を考えるのが楽しいです。

・1つのりんごからどんなものが生まれてくるのが毎回考えられる。特に「りんごじゃない果物かもしれない」のところが1番好き。



2位

『ワNDER』

R.J.パラシオ/作

中井 はるの/訳

ほるぷ出版

おすすめポイント

・人のコンプレックスについてのお話です。読むとほろっと涙が出てくるようでした。

・ワNDERは、障害のある子の物語で、自分がいつもしている生活は当たり前のことではない、命を大切に、オーガストのような障害のある子のことを深く知ることが大切だと感じた。



3位

『ウエズレーの国』

ポール・フライシュマン/作

千葉茂樹/訳

あすなろ書房

おすすめポイント

・何者にもとらわれない自由な心を持って自分の国を作るというストーリーがとても読んでいて楽しくなる本だから。

・一人で自分だけの国を作って、毎日そこで暮らしているというところがおもしろいと思いました。最後には、友達も遊びに来るというところが印象に残りました。



第3回よもよも大賞開催中！

いよいよ3年目！

今まで読んだことのない本があったら
チャレンジしてみましょう！

投票は、令和6年12月31日まで

投票・ブックリスト
はこちら！

結果発表は令和7年2月ごろ（予定）





よもうよ！もっと

よもよもボックス

長岡の子ども100冊

年齢リスト別 ナンバーワン



0～2歳

『だるまさんが』

かがくい ひろし／さく ブロンズ新社



おすすめポイント

・何度読んでも子どもが釘付け。覚えてから一緒に体を『だるまさんが』と左右に揺らしながら期待し、次のページのポーズを真似っこ。最高に楽しめるシリーズです。

・赤ちゃんもわかりやすくて昔から読み継がれてきた本だからです。

3～5歳

『三びきのやぎの がらがらどん』

マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店



おすすめポイント

・不動の名作かと。読み聞かせながら声色を大きくしたり、大中小の概念を擬音やセリフでワクワクしながら身につけられる。少し怖い要素も幼児には刺激的で夢中になりますよね。

1・2年生

『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

長谷川 義史／作 BL出版



おすすめポイント

・いっぱいおじいちゃんってつづくところがおもしろいです。

3・4年生

『大どろぼう ホツツェンプロツツ』

プロイスラー／作 中村 浩三／訳 偕成社



おすすめポイント

・ホツツェンプロツツがおばあさんの大事なコーヒーひきをうばって、ゼツペルとカスパールが取りかえす物語で、どう取り返すかが気になっておもしろい本だからです。

5・6年生

『りんごかもしれない』

ヨシタケ シンスケ／作 ブロンズ新社



おすすめポイント

・「かもしれない」ということが、読者の興味を引く。

・○○かもしれないとたくさん考えたり、子供だから考えることのできる発想をしているので、とても面白いです。

中学生

『カラフル』

森 絵都／著 講談社



おすすめポイント

・天使が人を蘇らせることが、とても不思議でワクワク。

・生と死の真ん中で自分が生きているということを感じさせてくれる本です。衝撃の結末に驚きます！